

創刊110周年記念

誇れるふるさと

24地区リレー

〈vol.13〉

<川上① 特徴>

川上地区は1989(平成元年)年4月1日、上宇部地区の北部(北迫新町など)と西岐波地区の西北部(片倉など)が合わさり、市内20番目の行政区として誕生した。84年に承認された宇部フェニックステクノポリス計画により、上宇部、西岐波地区の住宅化が進み、人口が増加したことが大きな要因。北迫新町やひらき台に、2001年に換地処分が完了した宇部新都市(あすとぴあ)も加わり、市内屈指の住宅集積地となっている。

あすとぴあなど擁する住宅集積地



校長室を走る周防・長門の国境線(川上中で)

地区内に長門と周防の国境線



南北に4車線化された国道490号が走り、東西に走る山陽道宇部下関線の宇部インターチェンジがある川上地区は、宇部の陸の玄関口。あすとぴあには99年4月に設置された県産業技術センター、片倉地区には96年に分譲を開始した宇部臨空頭脳パークがあり、産業集積地という特徴も持つ。

基本データ

- 面積15.57平方キロ (7位)
- 世帯数3311世帯

- 人口7694人 (10位)
(男性3737人、女性3957人)
- 高齢化率28.39%
- 小学校児童数420人
- ※世帯数などは2022年4月1日現在

地区のほとんどは、かつて山間地域だった。一方で、弥生時代の貝塚を伴った集落跡である北迫遺跡、811年に近江国から勧請されたという日吉神社の他、請川、片倉

地区にも神社仏閣が残り、古くから人が居住していたことが分かる。江戸時代、現在の南側、北迫、ひらき台などの旧上宇部地区は長門国、請川、片倉などの旧西岐波地区は周防国に当たり、地区内に周防と長門の国境が走っている。川上中はちょうど国境上にあるり、国境線が引いてある校長室と職員室はテレビでも紹介された。国境線は同校創立から10年間、社会科教諭として教壇に立った海頭巖さん(元・藤山中校長)が、当時の生徒と一緒に調べ学習で導き出したもの。「生徒が地域のことを知ろうと頑張った成果。地域の協力も大きかった」

合併当時、上宇部と西岐波という土地柄、歴史的な背景も違う地域の融合は大きな課題と考えられていたが、両地区住民の融和は順調に進んだ。地区コミュニティ推進協議会の大塚徹会長は「一致協力して新しい川上地区をつくろう」という気概に満ちあふれていた」と振り返る。

コロナ禍で開催できていないものもあるが、運動会、霜降山での初日を拝む会など、地域行事は今でも盛ん。「自分たちが地域をつくっていくことが継承されているからだろう」と地域団体の代表者たちは口をそろえる。